

# @Sing

アットシング

vol. **16**

## 変わる学校 変わる教育

西郷孝彦校長先生に  
お聞きしました！

「すべて」の生徒たちが  
3年間楽しく過ごせる学校を

【東京都世田谷区立桜丘中学校】

AI時代に求められる  
リーディングスキルの  
向上を目指して

【埼玉県戸田市教育委員会】

連載

教材活用講座

「新研究」学習と「活用」の問題演習で、入試の変化に対応

CONTENTS

〔特集〕

**変わる学校 変わる教育**

「すべて」の生徒たちが3年間楽しく過ごせる学校を  
【東京都世田谷区立桜丘中学校】 ..... 1

AI時代に求められるリーディングスキルの向上を目指して  
【埼玉県戸田市教育委員会】 ..... 7

**全国学力調査動向** ..... 13

【国語】 ..... 14

【数学】 ..... 15

【英語】 ..... 16

〔連載〕

**教材活用講座 第6回**

**進学教材 編**

「新研究」学習と「活用」の問題演習で、入試の変化に対応 ..... 17

# 変わる学校 変わる教育

## 1

「すべて」の生徒たちが  
3年間楽しく過ごせる  
学校を

### 実践例

## ～東京都世田谷区立桜丘中学校～

東京都世田谷区立桜丘中学校では、新しい学習指導要領でも重要視されている、インクルーシブ教育の実現に向けて、大胆な学校改革に取り組んでいます。

学校内には、特別な支援を必要とする生徒、不登校の生徒、帰国子女・外国籍の生徒なども含め、多様な個性を持つ生徒がいます。それらすべての生徒をまとめて扱うのではなく、一人ひとりの個性・違いに向き合い、それぞれの生徒の将来を視野に、個性・違いを伸ばせる学校環境づくりが目指されています。

新しい学習指導要領の実施に向けた、学校改革の一例として、ご紹介させていただきます。

# 東京都①世田谷区立桜丘中学校

## 「すべて」の生徒たちが3年間楽しく過ごせる学校を

東京都世田谷区立桜丘中学校(以下「桜丘中」)では、「インクルーシブ教育」の推進を掲げ、すべての生徒にとって楽しく過ごせる学校環境をつくりながら、生徒個々の個性と才能を伸ばす教育実践が続けられている。新学習指導要領の実施に向けた実践のヒントとして、桜丘中の特色や取り組み内容について、西郷孝彦校長先生のインタビューを中心に紹介したい。

### ① 桜丘中学校の概要

#### 概要

- ・所在地：東京都世田谷区桜丘2-1-39
- ・校長：西郷 孝彦 先生
- ・学級数：14
- ・生徒数：537名(平成31年度)

平成22年度に西郷孝彦校長先生が着任されてから、チャームをなくす、校則の全廃、定期テストの全廃など、さまざまな学校改革の取り組みをされてきた。育ってきた環境の違い、能力の違い、興味の違いなど、多種多様な個性を持つ生徒たちを、一つのルール、一つの仕組みでしぼるのではなく、「みんながって、みんないい」

の方針で、生徒一人ひとりと向き合える教育環境をつくり出されている。

### ② 西郷校長先生のお話

#### 多様性

この地域は、家庭の収入をはじめとする家庭環境から、生徒の学力まで、本常に多様な生徒がいる。全国模試で全国1位・2位を争うような生徒の隣で、アルファベットを書くこともままならない生徒が学ぶような状況。学力も高く、また経済的にも恵まれている生徒が、保護者との関係に問題を抱えて自傷をする、というふうなこともある。発達障がいのある生徒や教室に入れない生徒、私立の学校を放校された生徒など、周辺地域だけでなく、他地域からも、この学校で学びたいと来てくれることもある。例えば、知的障がいのある生徒でも、保護者が、知的障がいのための専門的な教育環境ではなく、一般の学校で部活なども含めての集団生活を楽しんでほしいという考えであれば、入学してもらおうようにしている。年度途中での編入生が多いため、クラス数は14クラスであるが、16クラス分の生徒数になっている。

そんな多様な生徒たちを見てみると、「平均」を取って考えることに何の意味もないと感じる。学力調査でも、平均値を見るよりも、学力の向上に課題のある生徒の状

#### 学力向上のために

この学校に通う生徒には、学校は楽しければよい、勉強は家庭や塾で、という生徒もいる。その一方で、学校での勉強を大切にしている生徒もいる。

生徒の学力が多様であることを踏まえて、定型的な宿題は出さないことにしている。また、定期テストも全廃した。定期テスト廃止については、生徒総会で「テストをやめてほしい」という議案が出て、賛成多数で可決されたこと、また、千代田区立麹町中学校の工藤勇一校長先生が先行して始められたことから、桜丘中でも着手した。(※2) 以前から考えていたことではあったが、反対意見もあり、なかなか実現に至らなかったが、「前例」ができたことで実現できた。

定期テストの代わりとして、単元ごとに20分程度の「ミルフィーユテスト」を行っている。定期テストのための勉強は一夜漬けになりがちであるし、また、広い範囲の勉強が必要になるので、全員がしっかりテスト勉強をすることは難しい。しかし、単元テストなら範囲が狭いので、生徒の集中力も持続し、こまめにテスト前勉強をするようになった。宿題はなくても、生徒はテストのために自主的に勉強をするし、宿題があるときよりも真剣に学習している。定期テストではなかなか点数が取れなかった生徒が、「ミルフィーユテスト」なら満点を取れるようになった。「ミルフィーユテスト」は、同じ範囲で再テストも受けられるようにしており、良いほうの点数を成績に反映している。最初は、先生の負担が重いので、再テストまではやめておこうと考えていたのだが、先生方からやりたいとの声があった。

導入当初は、テストの作成と採点で、先生方も疲れている感じがあったが、今は慣れてきているようす。小学校ではもともと「単元テスト」の形なので、評価をするうえでは問題はない。とはいえ、一方で入試対策としては、

況を把握して、その生徒に適した対策を取ることが大切であると考えている。学校全体やクラス全体、数学は、国語は……というようなくくりではなく、「この生徒はどっか」を考え、一人ひとりにどっ向きあっていいたらよいかを考えていく必要がある。

学力向上に課題のある生徒に対して、どのような手当てをしていったらよいか、個々の生徒たちを見ながら考えていくと、発達障がいの生徒に行き当たる。発達障がいのある生徒は、「努力」が足りないのではない。障がいがあるから、または障がいや適性にあった学びの環境が与えられなかったから、結果的に学力の向上に課題が生じてしまった。

「この学校でも」学校生活支援シート」を作成していると思うが、当校ではなるべく多くの生徒を対象にこのシートを作成し、校長以下、全教員で共有している。このシートこそが学校の「宝」。気になる生徒については、シートを参照しながら、こまめに目をかけ、声をかける。(※1)

#### 「一人のため」がみんなのために

「インクルーシブ教育」を目指して、学習困難な生徒のための工夫を重ねてきたら、結果的にそれがすべての生徒にとって良いことだとわかってきた。例えば、教室前方の掲示をなくしたのは、発達障がいの生徒のために始めたことだが、結果的にどの生徒にとっても集中できる環境になった。校則をなくすことも、のびのびとした気持ちになれて、みんなのためによかった。タブレットも、もともとは識字障がいの生徒のために導入したが、みんな使ってみたら便利だった。そうやって、一人ひとりを見つめ、一人ひとりにとってよいことを考えていくことで、みんなが楽しく過ごせる学校に近づいていった。



※1 桜丘中では、年に2回、「ゆうゆうタイム」という、生徒と先生が2人で話をする時間を設けている。生徒が話したい先生を指名でき、口頭思っていることを話しやすい環境をつくっている。逆に、教員にとっては、明らかに指名が少ないと、生徒に対する接し方に問題はなかったかと振り返るきっかけになっている。

※2 麹町中学校では、2018年度から定期テストを廃止したが、単元テストや小テスト、年5回の実力テストを実施。主体的な学習習慣が生まれ、自分がかからないところが把握できる、学力が定着するなどの効果が出ているという。

狭い範囲の「ミルフィューテスト」だけでは不安に感じる保護者もいるので、業者テスト(実力テスト)をすべての学年で学期に1回実施している。このテストの結果を参考に、生徒は自身で学力管理を行う。ただし、結果は成績には入れず、あくまでも現在の自分の状況を把握するためのものという位置づけである。

英語ではGTEC(英語の四技能検定)も受けさせている。これも成績に入れないことを伝えて、遊び感覚に近い感じで気楽に受けさせている。採点に3か月ほどかかるので、3年生の入試対策としては使えない。1・2年のみで実施している。

2学期の「ミルフィューテスト」のスケジュール表。週2〜3回、始業前の8時20分から20分間で実施している。

BYOD (Bring Your Own Device) の方針を取っている。識字障がいのある生徒などは紙に文字を書くことができなかつたりするので、そういう生徒にはタブレットを使わせる。タブレット上で問題を提供し、入力して回答することができる仕組みがあると、こういった生徒に適切に対応できる。

スマートフォンを持っている生徒には、授業で使うときは持つてくるように伝えている。授業で使わないときも含めて、スマートフォンについては、持ち込みも使用も禁止していない。休憩時間中はゲームをしてもよい。

プログラミング教育の一環として、LEGOのFLL (FIRST LEGO LEAGUE 9〜16歳を対象とした世界最大規模の国際的なロボット競技会)にも参加している。本部から送られてきた課題を解決するプログラムで、国内の大会で優秀な結果を出したチームは世界大会に出場できる。昨年は世界大会の会場がアメリカだったが、今年は東京で開催されるので、日本国内での入賞者が例年よりも多く設定される見込み。参加している生徒も、世界大会に出られる可能性が上がるので士気が高い。

PCなどのスキルについては、生徒たちの方がくわしいので、使い方などは学校では指導しない。プログラミングが得意な生徒は、Swift (Apple社が開発したプログラミング用語)を使って、iPhoneのアプリなどもつくる。

校内無線LANは、世田谷区のものもあるが、回線が弱いので、地域の方がつないでくれた光回線をベースに、校長と教職員で手作りのルーターを設置して活用している。生徒がゲームで使うとすぐにパンクするが、通常の授業で使用する分には問題なく使えている。

**非認知能力の重視**

近年は、非認知能力の育成について研究している。例えば、昨年度は、東京大学、東京学芸大学と協力し、保

**英語とプログラミングができれば**

英語とプログラミングさえできれば、将来安泰だと考えている。逆に、「いい学校に入って、いい会社に行けばよい」という将来プランでは、これからは厳しい。そこで、意識的に、英語教育とプログラミング教育に力を入れていく。ただし、プログラミングについては、教えられる人がなかなか見つからないのが悩みである。

英語教育としては、CLILを取り入れている。CLILとは、ヨーロッパで実施されている、移民に英語を教える指導法で、英語で他教科の授業を行うなど、習った英語を使う場面を多く設定するもの。例えば、オールイングリッシュで、英語の先生がプログラミングを教えるなどの授業を行っている。生徒はプログラミングの方法を知って、ロボットを動かしたい一心で、必死で英語を使って先生に質問する。GATEWAY(英語村)の活用なども行っている。

1年生用のプログラミング教材としては、Ozobot(プログラミング教育用ロボット ※3)を使っている。Scratch(簡単な操作で組み立てられるプログラミング言語)でも動くが、1年生についてはOzobot専用のカラーコードシールを使って動かすよう指導する。Scratchを使うプログラミングについては3年生で実施しよう。

microbit(12000円程度の小型PC ※4)を技術の教具として一人一台購入。センサーが5つ付いている。プログラミングを組み合わせるとおもちゃになる。Phoneでもプログラミングができる。授業がつまらなかったら、生徒は持参したPhoneでプログラミングをしてみたい。

また、Pepperが学校に3台あり、技術の時間やクラブ活動などで使用している。校中では、学校にタブレットもあるが、基本的には

護者の過干渉と無関心が生徒の非認知能力にどのような影響を与えるか、どのような相関関係があるかを調べた。すると、結果として、母親の影響はほとんどなく、父親の影響のほうが強いことがわかった。父親が過干渉になると、「自己肯定感」が低下し、「やりぬく力」、「折れない心」などが軒並み弱くなる。特に男子生徒に対する父親の影響は大きい。

今年度は感情の表出と非認知能力との相関関係について研究している。感情を表出できる環境があるかどうか、非認知能力の育成にどのような影響を与えるかを調べている。

認知能力	非認知能力
知的な能力	感情や心の動きに関する能力
基礎的知識、記憶力、判断力など、IQテストや学力テストで測定が可能な能力。	意欲、協調性、粘り強さ、忍耐力、計画性、自制心、創造性、コミュニケーション能力など、測定できない個人の特性による能力。

**不登校の生徒たち**

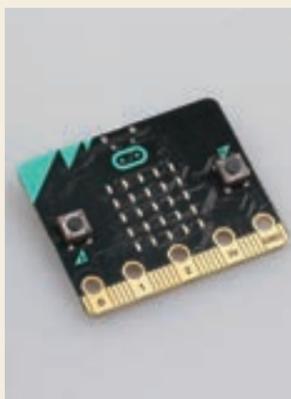
校中にも、小学校から不登校を続けている生徒がいる。復帰率は50%程度。中学校に入学して、環境が変わっても、すぐには教室に戻れない生徒が多い。不登校の生徒に対しては、無理には教室に入れない。職員室前の廊下に設置したリースペースでもいいし、校長室でもいいし、まずは、学校に来て、学校で好きなことをするように伝えている。不登校の生徒が教室に入れない理由は千差万別。人がたくさんいる環境が苦手な生徒もいれば、机が整然と並んでいるのを見るのが苦手な生徒もいる。そこを我慢させて、無理に教室に入れることはしない。

職員室前の廊下には、机、3Dプリンター、パソコン、キーボード、ハンモックなどが設置されていて、生徒が自由に使えるようになっている。



※3 世界最小のプログラミング教育用に開発されたロボット。紙の上に書かれた色を識別して走行することができる。「赤は止まれ」「黄色は右に曲がれ」などをプログラミングすることで、自在に動かすことができる。

©2019 Ozobot & Evolve, Inc. United States Patent Nos. 9,486,713 and 9,545,582.



※4 25個のLED、2個のボタンスイッチの他、加速度センサーと磁力センサー、無線通信機能がついている小さなコンピューター。プログラミングして操ることが可能。

# 変わる学校 変わる教育

## 2

AI時代に求められる  
リーディングスキルの  
向上を目指して

### 実践例

### ～埼玉県戸田市教育委員会～

グローバル化や情報化の急速な進展、特に人口知能の飛躍的な進化により、子どもたちが直面する未来は、今以上に予測困難な時代になると考えられます。そのような時代を生き抜くために必要な能力を育成すること、それこそが新しい学習指導要領のねらいです。

埼玉県戸田市教育委員会では、「21世紀型スキル」「汎用的スキル」「非認知スキル」の育成を目指して、独自の小中一貫カリキュラムを開発し、実践を行っています。そのうち、特に、「リーディングスキル(汎用的な基礎的読解力)」に関する研究を中心に、実践例を含めた取り組みについて、ご紹介させていただきます。

保護者としては「教室に入れるようになってほしい」「教室に入れてほしい」という思いがあり、保護者が生徒に教室に入るよう促すことが多いが、生徒はそれに対して、入れない理由を無理に作っても入らないようにする。例えば、「誰かにいじめられた」とか。いじめられたという事実がなくても、「いじめられた」と言うことで、教室から逃れようとする。逆にそのことで、クニスから浮いてしまっ、ますます教室に入れなくなることもある。不登校の生徒は、とにかく、学校に来ることがまずは第一歩。廊下のフリースペースでゲームをしても、音楽を聴いても叱らない。とにかく来るだけでいい。自由に過ごさせる。パソコンをしている生徒もあれば、ヘッドフォンをして一人で自習をしている生徒もいる。「学校に行く」ということに慣れてきたようすが見られたら、教師が少しずつ教室に入るよう背中を押す。朝、登校してきたら、クラスの時間割を見せて、「コマでも出してみる？」と誘う。少しでも教室で時間を過ごせるようになってきたら、その生徒の興味や特性に合わせた専用の時間割を週の始めに作って、その時間割に合わせて出るように促す。

今は、不登校の生徒のフリースペースとして、職員室前の廊下と校長室を使っているが、本来は専用のオープンスペースと専用の先生がいることが望ましい。校長室に入って時間を過ごしている生徒たちは校長が見ているが、職務多忙なときは校長室から出てしまうこともある。2017年に「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の確保等に関する法律」(※5)が成立・施行された。この法律により、不登校の生徒たちが、自宅や学校以外の場で学ぶ機会や教材の確保が重要視されるようになった。

### 個性を生かした才能開発

また、才能開発にも力をいれている。新しいことをやりたい生徒、挑戦したい生徒の芽をつぶさない。背中を押して、支援する。悪い言い方ばかりを責められると、どうしても自己肯定感は低くなる。いいところを伸ばす教育をすることで、生徒たちの個々の才能を開花させたい。

### これから

桜丘中の改革はこれで終わりではない。これから、多様な個性の生徒たちと向き合い、一人ひとりの生徒たちにとって適切な環境で、いいところを伸ばしていけるような学校をつくってきたい。(※6)

### 取材協力 桜丘中学校校長 西郷孝彦先生



横浜市生まれ。上智大学理工学部卒。理科と数学の免許を取得。大田区、品川区、世田谷区で理科の教員として勤務。教頭を経た後、2010年より現職。

※5 以下のようなことが定められている。

- ① 全ての児童生徒が豊かな学校生活を送り、安心して教育を受けられるよう、学校における環境の確保を図ること。
- ② 個々の不登校児童生徒の状況に応じた必要な支援が行われるようにしたり、安心して教育を十分に受けられるよう、学校における環境の整備を図ったりすること。
- ③ 年齢又は国籍その他の置かれている事情にかかわらず、その能力に応じた教育を受ける機会が確保されるようにするとともに、教育水準の維持向上を図られるようにすること。

※6

在校生の中には帰国子女も多い。英語の授業では、教室での一斉授業は受けず、図書室で自習をしてよいことにしている。図書室には、英語で書かれた本もたくさん所蔵されている。



グローバル化や情報化が急速に進展し、将来の予測が困難な時代をこれからの児童・生徒たちは生きていかなければならない。そのような未来社会を生き抜いていくためには、単なる知識の詰め込みではなく、問題解決能力や思考力、コミュニケーション能力といった「21世紀型スキル」「汎用的スキル」「非認知スキル」の育成が必要となる。これらのスキルは、AIには代替できない能力であり、またAIを活用するために必要な能力でもある。埼玉県戸田市では、これら三つのスキルを育成するために「戸田市PEERカリキュラム」という独自の小中一貫カリキュラムを開発し、実践を行っている。

本ページでは、その中でも「リーディングスキル(汎用的な基礎的読解力)」に関する研究に注目し、実践例を含めた取り組みについて、戸田市教育委員会教育政策室の新井宏和指導主事にお話を伺った。

戸田市の概要

- ・ 東京都に隣接する交通至便の街
- ・ 30歳代の子育て世帯が多い活気ある街
- ・ 小学校12校、中学校6校
- ・ 児童数：約8200人
- ・ 生徒数：約3400人

戸田市PEERカリキュラム

～ 21世紀型・汎用的・非認知の三つのスキルを育成する小中一貫カリキュラム～

- 21世紀型スキル** 批判的思考力、問題解決力、企画力、コミュニケーションスキル、プレゼンテーションスキル
- 汎用的スキル** 各教科で学んだ力を実社会の様々な場面で活用できる能力
- 非認知スキル** 粘り強さ、やり抜く力、協調性、自制心

Programming(プログラミング教育)

令和2年度から小学校に導入されるプログラミング教育に、GoogleやMicrosoft等の企業と連携して取り組んでいる。低学年からでも体感的に学べるロボットを活用し、高学年ではScratch(スクラッチ)等によるプログラミングを通じて、「プログラミング的思考」と呼ばれる論理的に考える力を育むことを目指している。

English(英語教育)

全小中学校にALTが常駐し、日常的な異文化コミュニケーションにも恵まれた状況の中で、小中一貫英語教育を推進している。また、英語以外の教科等の指導の中で英語を活用する「イメージ教育」の研究も進めている。さらに「小中9年間の英語学習の総まとめ」として英検の資格取得を推進(小6・中3生への費用全額補助や土曜日の特別対策講座)している。

Economic Education(経済教育)

難解な経済学や経営学とは異なり、「社会の仕組み」や「経済の働き」について身近な題材を通して体験的に学び、よりよい生き方について考える学習。一般社団法人CEEジャパンと連携して、「考える習慣」を身に付け、「質の高い選択ができる力」を育むことを目指している。

Reading Skills(リーディングスキル)

国立情報学研究所の新井紀子教授と連携し、リーディングスキル(汎用的な基礎的読解力)に関する研究を行っている。リーディングスキルと学力との関係について分析し、それらを効果的に向上させる指導法の開発などを進めている。

※PEERとは「仲間」や「見つめる」ことを意味し、小・中学校がそれぞれに教育活動を行うのではなく、小・中学校9年間の学びと育ちの連続性を重視する観点から、お互いを「仲間」として「見つめ合う」ことが肝要との思いが込められている。

リーディングスキル(RS)

リーディングスキル(RS)とは、汎用的な基礎的読解力であり、教科書や新聞、マニュアルや契約書などのドキュメントの意味および意図を、迅速かつ正確に読み取る力のことである。「21世紀型スキル」「汎用的スキル」「非認知スキル」の三つのスキルを育成していくにあたって、リーディングスキルは、これらの三つのスキルを支える基礎的なスキルになると考えられている。

戸田市ではリーディングスキルについて、「すべての生徒が中学校卒業段階で、教科書を正しく読めるようにする」という目標を掲げている。これは、教科書の文章を正しく読むことができなければ、教科身に付けるべき資質・能力を育んでいくことは難しいと考えているからである。

そして、読解力が育まれているかどうかの評価には、リーディングスキルテスト(RST)が活用されている。

リーディングスキルテスト(RST)

リーディングスキルテスト(RST)は、主に中学校・高校の教科書から抽出した短い文を読んで正確に読み取れるかを測るテストである。「AIに負けない子どもを育てる」『A i v s . 教科書が読めない子どもたち』(東洋経済新報社)などの著書でも知られる国立情報学研究所の新井紀子教授が研究代表を務める研究チームにより考案されたもので、人間の読解プロセスから導き出された6つの問題から、それらの力を測ることができる。

1 「係り受け解析 (DEAD)」

主語・述語や修飾語・被修飾語など、文を構成する要素の関係(係り受け)の理解について問う。

2 「照応解決 (ANA)」

「それ」「これ」などの指示代名詞が何を示すか(照応)の理解について問う。

3 「同義文判定 (PARA)」

二つの文が同じ意味を表すかどうかを判断する力について問う。

4 「推論 (INF)」

文の構造を理解した上で、体験や常識、その他の様々な知識を動員して文章の意味を理解する力を問う。

5 「イメージ判定 (READ)」

文章と図形やグラフを比べて内容が一致するかどうかを認識する力を問う。

6 「具体例判定 (辞書、理数) (NST)」

文章で書かれた定義を読んで、それと合致する具体例を認識する能力を問う。

PARA (同義文判定)

**例題**

以下の文を読みなさい。

義経は平氏を追いつめ、ついに壇ノ浦でほろぼした。

上記の文が表す内容と以下の文が表す内容は同じか。「同じである」「異なる」のうちから答えなさい。

平氏は義経に追いつめられ、ついに壇ノ浦でほろぼされた。

同じである     異なる

正解：同じである

INF (推論)

**例題**

以下の文を読みなさい。

エベレストは世界で最も高い山である。

上記の文に書かれたことが正しいとき、以下の文に書かれたことは正しいか。「正しい」、「まちがっている」、これだけからは「判断できない」のうちから答えなさい。

エルブス山はエベレストより低い。

正しい     まちがっている     判断できない

正解：正しい

※リーディングスキルテストの問題例は、「教育のための科学研究所」のHPから引用。次のサイトでも見られます。https://www.s4e.jp/



## 授業改善のポイント

### ①「係り受け解析(DEP)」 ②「照応解決(ANA)」

- 「それ」「これ」等、指示代名詞が示す言葉に下線を引きながら読み取らせる。
- 主語が書かれていない文章(書かれている文章についても同様)は、教師が意図的にその文章の主語を問うたり、補うように指示したりする。
- (意味が分かるようになるまで)繰り返し読むよう指示する。
- 文章を音読したり、視写したりする学習活動を取り入れる。

### ③「同義文判定(PARA)」 ④「推論(INF)」

- 言葉の定義や意味を正しくおさえた上で、文章を読み取り考えたり、話し合ったりする活動に取り組めるようにする。(正しい定義や意味が分からないときは、必ず調べるよう指導する。)
- 「ならば」「すべて」「いつも」「～のとき」「以外の」「ではなく」「もある」などの言葉の正しい使い方を身に付けさせる。

### ⑤「イメージ同定(REP)」 ⑥「具体例同定【辞書、理数】(INST)」

- 文章を読み取る過程では、読み取ったことを整理したり考えを深めたりするために、図的表現(簡単な絵などを含む)を用いて考えを進めるようにする。
- 意味が分からない言葉(理解が曖昧な場合も)が出てきたら、辞書やインターネットを使って調べる習慣を身に付けさせる。
- イメージや受け取り方が異なる「言葉」は、具体的な様子を全体で共有しておく。  
(例)「工夫して計算しよう」の「工夫して…」とは?
- 新しく学んだ(理解した)言葉を使って文章を書いてみる。
- 指定された文章に合う図やグラフを子供たちが選択するような場面を意図的に設ける。



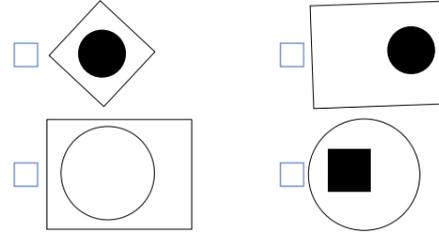
これらの授業改善のポイントは、毎時間必ず取り入れなければならない活動ではなく、問題の意図を正しく捉えられるよう学習場面に応じて取り入れたり、児童生徒の個に応じた指導に取り入れたりするなど、教師が目的に応じて、取捨選択することが望ましいことである。

日々の授業では、教科書などを「正確に読むこと」を大切にしたいと仰っていた。そのためにはまず、問題提示や発問の仕方、板書計画、学習プリント作成などの授業改善を、リーディングスキルの視点から実施することが大事だそうである。また、子供たちが考える機会をより多く設定し、正しく読まなければならないという必要感を大切に授業づくりを行ってほしいとのことである。

### REP (イメージ同定)

#### 例題

下記の文の内容を表す図として適当なものをすべて選びなさい。  
四角形の中に黒で塗りつぶされた円がある。



正解:

### INST (具体例同定)

#### 例題

以下の文を読みなさい。  
2で割り切れる数を偶数という。そうでない数を奇数という。  
偶数をすべて選びなさい。

- 65
- 8
- 0
- 110

正解: 8,110,0

## リーディングスキルテストの実施方法と結果・課題

### 実施方法

各学校が年一回、9月～10月頃に受検している。リーディングスキルテストはCBT形式(Computer Based Testingの略)で実施されるが、戸田市の各学校はICT環境が整っており、各教室に無線LANが整備されているので、コンピュータ教室で実施するだけでなく、普通教室でも実施する学校もあるとのこと。PCは「Chromebook(クロームブック)」というGoogleのノートPCが使用されている。戸田市の小中学校には全部で約3000台導入されている。

### 結果・課題

リーディングスキルテストを実施し、教科書レベルの文章が読めない生徒が一定数いることが明らかとなった。そのため、「教科書を読みなさい」「教科書の内容をまとめなさい」と教師が指示をしても、正しく指示を把握して学習を進められない生徒がいることを前提とし、指導をしなければならないと考えている。

項目別に見ると、「イメージ同定」と「具体例同定」に特に課題が見られたそうである。点数の低かった項目を教師が普段から意識して指導を行うことが大切で、例えば「イメージ同定」については、教科書の内容を指導するときに、教科書には掲載されていない必要に応じて図なども併せて提示するといった工夫も必要であるとのことである。

## リーディングスキル向上に向けた取り組み

授業改善や指導力向上に向けて、様々な取り組みを行っているそうだが、問題作成を通じた研修のご紹介いただいた。

最初にリーディングスキルテストを自ら受検し、RSTの内容や先述の6つの視点を理解した後に、教科書の文章に基づきRSTのテスト問題を作成するという研修である。問題は教科書の文章を使い、作成するので、この研修を通して、教科書の文章で生徒がつまづきやすい部分はどこかを意識するようになり、以前は教科書が読める前提で授業を進めていたことから考えると、大きな改善につながっているとのことである。

また、各種学力調査の児童生徒の誤答をリーディングスキル視点から分析することにも取り組まれている。これまでは、教科ごとの視点のみ、分析をしていたそうだが、近年は国語以外の教科においても、文章や問題の設定をしっかりと読み取って解く問題が増えてきており、文章読解が原因で間違ったのか、教科の知識技能等が足りなかったことが原因なのか、分けて考える必要があるとのことである。

そういった研修や分析結果を踏まえ、リーディングスキル向上を目指した授業づくり研修会や新井紀子先生考案による授業実施など、授業改善に向けた様々な取り組みがされている。リーディングスキル6つの視点から考えた授業改善のポイントもご紹介いただいた。

# 全国学力 調査動向

2019年4月18日に実施された全国学力調査で、

初めて、英語の調査が行われました。

その英語を含め、2019年に実施された調査問題について、これまでの問題傾向からの変化を中心にご紹介いたします。また、あわせて国立教育政策研究所が公表している、結果とおもな課題についてもまとめました。

\*p.14～16の問題は、平成31年度全国学力・学習状況調査より一部抜粋。

## 資料 リーディングスキル向上を目指して実施された授業案

### ① 中学3年国語(教科横断型) 同義文判定 推論 の育成

2019年の6月に戸田中学校で、新井紀子教授がゲスト講師として、「同義文判定」と「推論」の二つのリーディングスキルを伸ばすための授業を、中学3年生を対象に実施された。

国語の教科書(光村図書)で『月の起源を探る』という教材を学習する際、理科の教科書で太陽系の起源などの知識を確認しながら、「批判的読解をすることはどのようなことなのかを学ぶ」を目標に設定された。まず、『月の起源を探る』の内容を読み取っていくうえで必要な知識を理科の教科書を使って確認し、その後で『月の起源を探る』に書かれている月の起源についての四つの仮説を、教科書の内容に沿って一つ一つ検証していく形で授業が進められた。教科ごとの学習だけではなく、教科横断的な形でも進められるという一例である。

### ② 中学2年数学 推論 具体例同定 の育成

題材名 にせの定理を探せ ※本授業案は、新井紀子教授が考案  
〔AIに負けない子どもを育てる〕に授業例が掲載されています

目標 にせの定理を見つけ、その反例を示し根拠を説明することができる。(見方・考え方)

評価規準 提示された三つの命題について、にせの定理を見つけ、その反例を示し根拠を説明している。(見方・考え方)

- 展開例
- 問題場面を知り、課題をつかむ。**
    - 定理とは、正しいことが証明されている命題であることをおさえる。  
正しい命題→定理 / 正しくない命題→にせ定理
  - 教師が例示する二つの命題を考えることで、本時の学習について、見通しをもつ。**

命題 例1「0は偶数である。」 →定理  
命題 例2「3の倍数は必ず6の倍数になる。」 →にせの定理

    - 「正しい」か「正しくない」か挙手させ、正しいと言うためには、証明が必要ということをおさえる。
    - 「反例」という用語について説明をする。反例とは、定理が成り立たない例を挙げることである。
  - 本時で判断する定理(にせの定理を含む)を知り、各自で定理の真偽を考える。(自力解決) →(グループでの解決)**
    - 三つの命題「連続する二つの整数の和は奇数である。」 →定理  
「素数はすべて奇数である。」 →にせの定理  
「6の倍数は必ず3の倍数になる。」 →定理
    - 定理が正しくなければ、その定理をにせの定理と呼ぶこと、本時はその真偽を判断していくことがねらいであることをおさえる。  
命題は正しい(定理である)(説明) / にせの定理である(反例を挙げる)
  - 3の結果を発表すると共に、その根拠を説明するために「反例」が必要となることをおさえる。**
  - 本時のまとめをする。**

「にせの定理」を見つけるためには、反例を見つければよく、定理であることを確認するためには、(定義を振り返り)定義に合っているかどうかを一つ一つチェックしながら、正しいということを証明する必要がある。

### 特徴1 「知識に関する問題」と「活用に関する問題」が一体化

今年度の調査問題では、新しい学習指導要領が求める育成を目指す資質・能力を踏まえ、それらがどういうものであるのかを、教育委員会や学校に対して、具体的なメッセージとして示すものとなるよう検討され、従来の「主として『知識』に関する問題」と「主として『活用』に関する問題」に区分するのではなく、一体的に調査問題が構成された。



### 特徴1 「知識に関する問題」と「活用に関する問題」が一体化

国語同様、今年度から、従来の「主として『知識』に関する問題」と「主として『活用』に関する問題」に区分するのではなく、一体的に調査問題が構成された。調査問題では、生徒自らが事象を数理的に捉え、数学の問題を見いだして解決していくことが期待されている。

### 特徴2 文章読解に「とどまらない問題」

今年度は4大問構成となったが、国語の一般的な試験問題で大多数を占める文学的文章や説明的文章の読解は見られなかった。

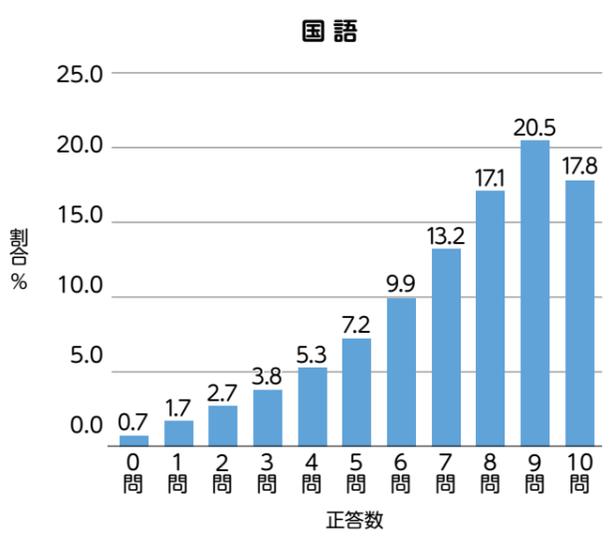
- 1 日本の「弁当」に関する記事と、中学生が創作した短歌などが掲載された新聞が題材。文章の構成や展開、表現の仕方について考えたり、弁当の魅力や文章の展開に即して捉えたりすることが求められた。また、短歌を読み、情景や心情を想像しながら感じたことや考えたことを書いたり、投稿のために封筒に名前と住所を正しく書いたりすることが求められた。
- 2 文化祭に向けての取り組みについて話し合っている場面設定の問題。話し合いの話題や方向を捉えたり、話し合いの参加者にわかりやすく伝わる表現について考えたりするとともに、提案された内容で未解決の部分に気づき、それを解決する具体的な自分の考えを適切に表現することが求められた。
- 3 意見文の下書きを書く設定の問題。よりわかりやすい文章にするために論の展開にふさわしい言葉を書き加えたり、説得力のある意見文にするために集めた資料をもとにして根拠を補ったりすることが求められた。
- 4 話したり書いたりする際に略語(語の一部を省いた表現)を用いることについて、場面や状況に応じた適切な活用の仕方考えることが求められた。

### 特徴2 数学の問題発見・解決における三つの局面で問題構成

今年度は9大問構成で、1〜5が単一の問題、6〜9が複数の設問からなる問題であった。数学の問題発見・解決における局面を「事象における問題を数学的に捉えること」「問題解決に向けて、構想・見通しを立てること」「問題解決の過程や結果を振り返って考察すること」の三つの局面でとらえて出題された。

- 1 正の数・負の数
- 2 連立二元一次方程式
- 3 平面図形
- 4 比例・反比例
- 5 確率
- 6 事象の数学的な解釈と問題解決の方法…二種類の冷蔵庫の容量、本体価格、年間当たりの電気代をもとに、何年か使用したときの総費用を、連立方程式や一次関数を使って比較する。
- 7 証明することや反例をあげることを通して、「統合的・発展的に考察すること」…正方形の場合と平行四辺形の場合で、ある予想が成立するかを、三角形の合同条件や反例を用いて考察する。
- 8 分布の傾向を読み取り、「批判的に考察し判断すること」…図書委員会が実施した読書時間に関するアンケート調査結果のヒストグラムを読み取り、批判的に考察する。
- 9 説明を振り返り、「統合的・発展的に考察すること」…連続する奇数の和についての予想を、式変形を用いて検証する。

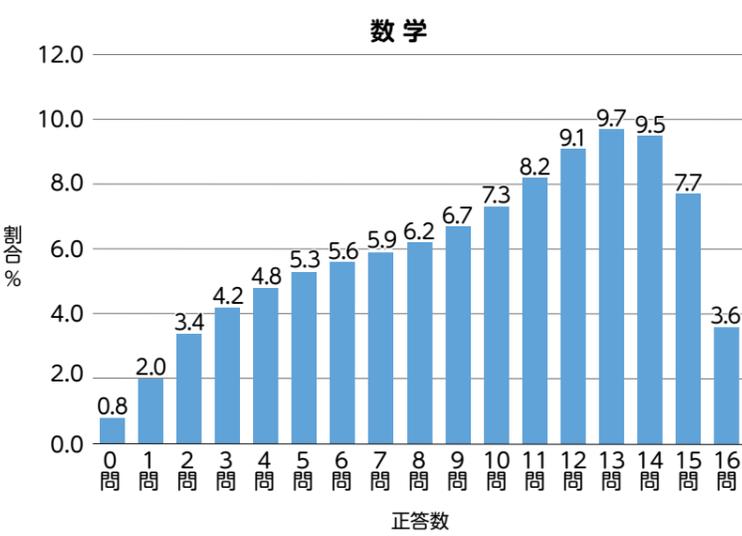
### 結果と課題



半数以上の生徒が10問中8問以上正解しているが、正答率の低かった問題を分析すると、次のような課題が浮かび上がった。

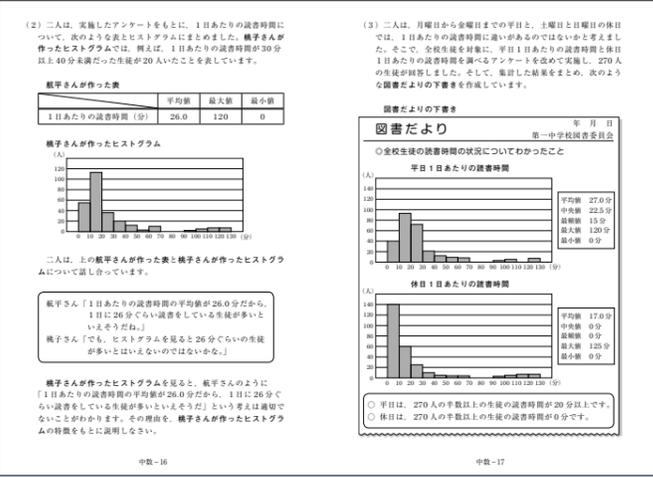
- 文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつことや、文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉えること。
- 封筒の書き方を理解し、文字の大きさや配列などに注意して書くこと。
- 話し合いの話題や方向を捉えることはできているが、それを踏まえて自分の考えをもつこと。
- 自分が伝えたいことについて資料の中から根拠となる情報を取り出して正確に書くことはできているが、自分が伝えたいことの根拠として読み手にわかりやすいように書くこと。

### 結果と課題



中央値は10問。簡単な連立二元一次方程式を解くことについての改善の傾向や、三角形の合同条件の理解が見られた一方、次のような課題が見えた。

- 結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見いだし、説明すること。
- 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること。
- 問題解決するために、どのような代表値を用いるべきかを判断すること。



連載企画

# 教材活用講座

第6回

## 「新研究」学習と「活用」の問題演習で、入試の変化に対応

この連載では、全国各地の中学校でお聞きした、補助教材を活用しながら、生徒のみなさんの学力向上に向けて工夫されている取り組みをご紹介します。

第6回目となる今回は、全国学力調査で出題されているような、いわゆる「活用」の問題が入試問題に取り入れられている大分県で、「活用」の力を身に付けるために行われている指導方法や取り組みについてご紹介いたします。



### 特徴1 英語は初めての実施

平成30年度の5月に実施された予備調査を踏まえて、今年度が初めての悉皆調査となった。国語や数学と同様に「知識」「活用」の区分はなく、一体的な構成で出題され、「読む」「聞く」「話す」「書く」の4技能すべてを測るテストであった。今後は理科と同様に、3年に1回実施される予定である。

⑥ 英語の授業で、身近なものを調べて発表することになりました。次の英文は、ある生徒が、100円ショップについて調べてまとめたものです。これを読んで、発表の時に話の要点を示すスライドとして最も適切なものを、右の1から4までの中から1つ選びなさい。

We have many 100-yen shops (hyakūen) in our city. We can buy many kinds of things for 100 yen now. One of the biggest sellers is stationery. Many people buy kitchen items and cleaning items, too. We can also get food, toys, and even clothes.

There were some shops like hyakūen long before the first hyakūen shop opened. In the 1930s, Japan had "10-sen shops." Everything in these shops was 10 sen. They were very popular. Their number went down during World War II. In the 1960s, some supermarkets or department stores had 100-yen corners or 100-yen events. In 1985, the first hyakūen opened in Aichi. In the 1990s, a lot of hyakūen opened in Japan. Today there are about 8,000 shops.

There are shops like hyakūen in many countries. For example, in the U.S., they have one-dollar shops. I was surprised that some of these shops sell medicine. We cannot buy medicine at hyakūen in Japan. The U.K. has one-pound shops. In the U.K., DIY is popular, so there are many items for DIY at one-pound shops. Many other countries also have shops like hyakūen.

(注) the biggest seller: 最も売れているもの    stationery: 文房具  
 item: 商品    1930s: 1930年代    1960s, 1990s: 60年代、90年代  
 sen: 銭 (日本の古い通貨単位)    World War II: 第二次世界大戦  
 department store: デパート    corner: コーナー  
 pound: ポンド (イギリスの通貨単位)  
 DIY: 日曜大工 (趣味で行う簡単な大工仕事)

中英-13

### 特徴2 4技能別の問題構成

「聞くこと・読むこと・書くこと」の問題は10大問構成で、1〜4が「聞くこと」、5〜8が「読むこと」、9〜10が「書くこと」の問題であった。また「話すこと」の問題は、1〜3の3大問構成で出題された。

- 【聞くこと・読むこと・書くこと】
- 1 (聞く) 情報を正確に聞き取る
  - 2 (聞く) 話の概要を聞き取る
  - 3 (聞く) 聞き手として必要な情報を聞き取る
  - 4 (聞く) 聞いた内容について適切に反応する
  - 5 (読む) 情報を正確に読み取る
  - 6 (読む) 話のあらすじを読み取る  
 ……発表活動のためにまとめられた100円ショップについての文章を読んで、話の流れを示すスライドとして最も適切なものを選択する。
  - 7 (読む) 説明文の大切な部分を読み取る
  - 8 (読む) 読んだ内容について適切に反応する
  - 9 (書く) 語や文法事項等を理解して正しく文を書く
  - 10 (書く) まとまりのある文章を書く  
 ……学校を表す2つのピクトグラムの案を比較して、どちらがよいか理由とともに意見を書く。
- 【話すこと】
- 1 基本的な表現を理解して正しく応答する
  - 2 即興でやり取りをする
  - 3 まとまりのある内容を話す

### 結果と課題

話すこと		聞くこと・読むこと・書くこと	
平均正答率 (%)		平均正答率 (%)	
技能	話すこと	聞くこと	68.3
		読むこと	56.2
		書くこと	46.4
評価観点	関心・意欲・態度		
	表現	28.1	1.9
	理解		45.3
	知識・理解	32.6	65.2

●聞くこと、読むことだけにこだわらず、把握した内容について適切に反応する「書くこと」ができるようになる必要がある。

●言語材料を正しく用いて、伝えたい内容を正確に書くためには、日々の授業で文法指導と言語活動を一体的に行い、生きて働く知識として言語材料の定着を図ることが重要である。

●話すことについては、自分の意見を話す問題の無答率が低く、伝えようとする意欲が見られ、小学校から始まる言語活動の積み重ねの成果が表れている。

# 「新研究」学習と「活用」の問題演習で、入試の変化に対応

大分県では、数年前から、県立高校の入試問題で、いわゆる「活用」の力を問う問題が出題されている。県内の先生方が、そういった入試の傾向に対して、どのような対策を取られているのか、大分市内のいくつかの中学校で、お話を聞きました。

## 入試対策の土台作りは朝学習と宿題で

取材先のすべての学校で共通して聞かれたのが、「活用するには、基礎がしっかり定着していないといけない」ということ。大分市内では、入試のための基礎作りとして、「新研究」と、シート教材である「サポート」(または「中学セミナー」)が採用されている。

## 2年生の3学期からの進学教材学習



家庭で「新研究」学習



朝学習の時間にシート学習

担任の先生に「新研究」とシートを提出  
⇒先生が検印後に返却



## 「新研究」と「サポート(または「中学セミナー」)」を使った学習

活用の前段階として、個々の生徒の苦手とする教科の基礎力強化に向けて、「新研究」A問題をしっかりと解くよう指示しています。A問題はすくよくよくできていて、低位の子にとって最低限必要な基礎の基礎が出題されているので、そこだけでも繰り返し取り組ませるようにしています。



3年 担当先生

「新研究」学習は曜日固定で、朝学習の「サポート」は、朝会のない日に実施しています。毎月予定表を配布して、それに従って学習させるのですが、どうしても「サポート」が遅れがちになるので、「新研究」は特集なども予定に組み込んで、なるべく「新研究」と「サポート」の単元が大きくずれないようにしています。



3年 進路 担当先生

「毎日ノート」という自主勉強用のノート学習をさせています。半分はその日に予定された「新研究」学習をさせて、残り半分は各自で決めた自主勉強をさせます。週末は、課題を2教科分ずつ出しています。週末課題は、授業でやったところから出します。

「新研究」も「サポート」も毎回回収しています。「新研究」は担任、「サポート」は副担任がチェックして返しています。「新研究」については、気付いたことを本誌に書き込むように指示しており、それをチェックして、必要に応じて指導しています。



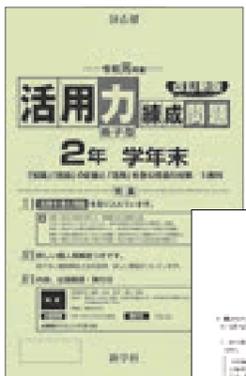
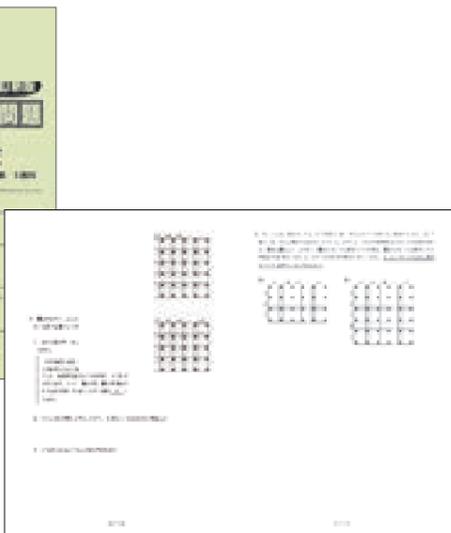
3年 担当先生

**実力テストで学力の診断と振り返り**  
大分市内では、多くの学校で、3年生になると年間7回程度の実力テストが行われる。テストの実施後、テスト返却の際に、テストで正解できなかった問題について、「新研究」のどのページのどの部分を振り返ればよいか、先生から生徒に具体的に伝えることで、生徒の振り返り学習を促している。

今年度は、「活用問題」への意識付けと、進学教材学習へのスイッチを入れるため、2年生の学年末で「活用力練成問題(活用の問題を含む実力テスト)」を実施しました。生徒が自分の学力に対して危機感を持つきっかけとなり、入試に向けた学習の意欲付けにつながったと思います。



3年 担当先生



## 3年生3学期は仕上げ教材で「活用」の力をつける

大分市内では、2年生3学期からの「新研究」学習については、3年生の夏休みまでに1・2年範囲を2回以上繰り返し学習させる学校が多い。そして、3年生の12月ごろまでに、授業・「新研究」ともに単元学習を終えて、授業時間を使って「ベスト」シリーズなどの仕上げ教材や公立入試の過去問題などを使った実戦問題演習を行っている。



このときに、「活用」を問う問題については、大分県の過去の入試問題だけではなく、他県の入試なども含めて、意識的に数多く解かせるようにしているとのことでした。

生徒が仕上げ教材に取り組んでいる間、机間指導を行います。机間指導のときに質問が多かった内容や、間違いやすい内容について、授業時間の最後の5分程度を使って全体解説を行っています。



3年 担当先生

新刊

# 考える力が身につく活用問題 思考のレッスン



「活用問題」に段階を踏んで取り組むことができるバラプリント教材です！

国語・社会・数学・理科・英語  
1・2年 各8回※  
※社会1年のみ9回

表面(入門)は、活用問題の考え方・技能がわかる問題構成！

裏面(練習)は、表面でつかんだ考え方・技能を使って実戦的な活用問題が解ける！

特長① 表：考え方のキホン→裏：実戦的な練習問題で、活用力が身につく！

「活用ポイント」で身につく「活用力」が一目瞭然！

【問題表面】活用問題の考え方の道筋がわかる表面！



▲国語1年第7回 問題(表面)

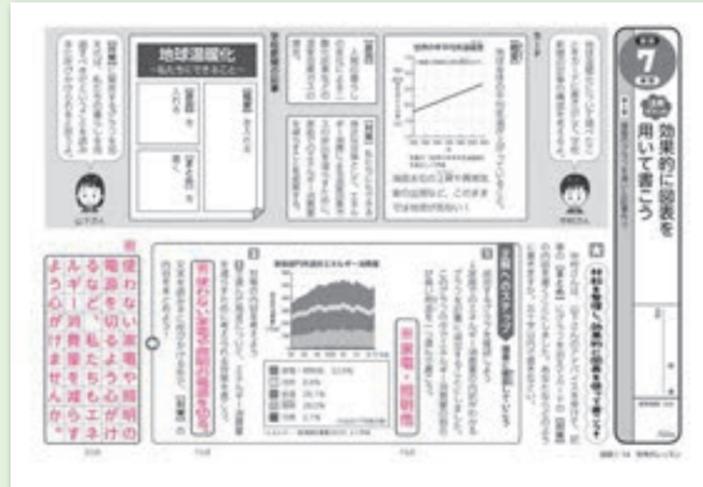
効果的に図表を用いて書こう

活用ポイント例

国語	・情報の扱い方を身につけよう ・根拠を明確にして書こう
社会	・自然環境は農業にどのように関係するのか説明しよう
数学	・文字式を使って計算のしくみを説明しよう
理科	・緊急地震速報のしくみをもとに、避難方法を考えよう
英語	・必要な情報を読み取る ・話の流れをつかむ

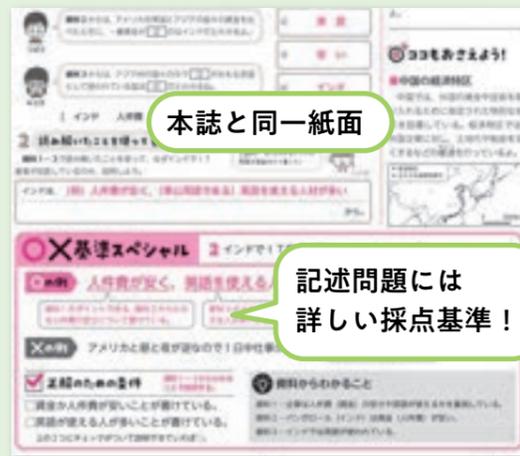
など

【問題裏面】表面でつかんだことを活かせる裏面！



▲国語1年第7回 問題(裏面)

特長② 答え合わせしやすい手引き！



本誌と同一紙面

記述問題には詳しい採点基準！

▲社会1年第2回 手引き(表面)

※表紙、紙面デザインは製作中のものですので、変更の可能性があります。

思考力・判断力・表現力は1年生から少しずつ

活用問題を解くための思考力・判断力・表現力は、短期間では身につけにくい。そのため、調査で聞ききた学校では、1年生の段階から徐々に、思考力・判断力・表現力が身につくような取り組み・工夫を行っているところが多かった。

朝自習の時間に、1・2年は、活用問題を含んだ先生自作のプリント学習を実施しています。実施時間は25分程度で、国語では、図や表の読み取りなどを入れています。2年生3学期からは進学のシート教材に移行させます。

思考力・判断力・表現力育成のため、全教科の授業で学び合いの活動も取り入れています。学び合いのテーマ設定については、特に1年生では、「地球環境」などのような、生徒の実社会から遠い世界の話題よりも、「学校生活の中にある身近な話題をテーマにするほうが、生徒の意欲を高めやすいと感じます。大分県に関連付けた話題なども有効かと思えます。



1年国語  
ご担当先生



読解力と表現力を総合的に育成

「活用」の力を問う問題では、いずれの教科でも、資料や問題文、題材文を読み取ることができただけでは不十分で、そこから考えて、さらに表現するに至るまでの総合力が求められる。教科書にない資料や文章などに触れ、読み取る機会を増やし、ながら、こまめに表現させることを積み重ねる工夫が必要となる。

国語では近年、新聞記事(実際の新聞や架空の校内新聞の記事など)を使った問題が入試によく出されています。授業の中で、同様の資料を提示して、読み取る練習をさせることもあります。また、グラフなどの統計資料を用意して読み取らせることもあります。

3年国語  
ご担当先生



活用に至るまでの基礎力の育成として、3年生1学期から授業中の5分間の帯学習を実施しています。100問英単語や基本文テストなど、さらに、表現力育成のため、毎回3分間とって、英問英答で英文文を作らせています。ある程度たまったら、回収してA・L・Tが添削して返却。さらにたまったら、長文に仕上げて提出させ、A・L・Tが添削して返しています。

3年英語  
ご担当先生



定期テストで活用の問題を出題

活用力を育成するため、前述のように授業内で意識的に活用力を育てる取り組みをするだけでなく、定期テストでも活用の問題を出題する学校も多い。

活用力育成として、全学年で定期テストに2割の活用問題を入れていきます。出題した活用問題は冊子にまとめ、次年度の先生に引き継ぎ、学校内での取り組みの継続に努めています。

「新研究」の同一問題をテストに出題しています。後ろのほうにある活用問題をテストに出すこともあります。

3年  
ご担当先生



1年  
ご担当先生



「活用」の力を育成するために

調査の中で、実践校の先生方が今後の課題と感じられていることとして主に2点聞かれた。一つは、「活用」の問題のネタ・テーマ・資料探しの大変さである。生徒にとって身近で、なおかつ学んだ内容を適切に「活用」できるような設定での問題作成には多くの時間を取られるとのことであった。そして、二つめは、苦手な生徒に対し、どのように指導していくかである。ある学校では、普段の授業から学び合いの時間を積極的に取り入れることで、生徒同士の教え合いが行われやすい土壌づくりをしているところである。引き続き、これから求められる学力の育成に向けた取り組みについて、情報収集を続けたい。

# 全ての教材で移行措置完全対応！ 新学社のワークブックで 授業の振り返りを効果的に！

**大好評！**  
プリント作成システム  
**すくプリ**  
働き方改革もお助け！

## 国語



新・基礎の学習  
国語

## 社会



社会の自主学习

## 数学



スパイラル式  
パターン演習



数学の基本ノート



数学の  
問題ノート

## 理科



理科ノート

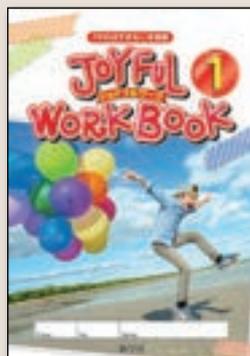


理科の自主学习



基礎の学習  
理科

## 英語



ジョイフルワーク

**大好評！** 数問ノート  
システム



- ワークとプリントをセットにしたシステム教材！
- 持ち運びや管理に便利な前期・後期の2分冊方式！

次号  
予告

@Sing vol.17 { 2020年9月頃  
発行予定 }

**特集** 入試の変化と  
最新高校入試情報など

次号も、すぐに役立つ最新教育情報を満載してお届けします！

発行人／中川栄次 編集人／内藤祐宏  
編集・デザイン／新学社編集部, 株式会社 ひでみ企画 印刷／大平印刷株式会社  
発行所／株式会社 新学社 TEL. 075-581-6111 (代表)

京都 〒607-8501 京都市山科区東野中井ノ上町11-39

東京 〒162-0841 東京都新宿区払方町14-1

新学社ホームページ <https://www.sing.co.jp>

◆本書の内容についての責任はいっさい新学社にあります。お問い合わせは、当社編集部へお寄せください。  
◆本書の全部または一部を複製・転写して使用すると著作権法違反となり罰せられます。

表紙写真…©CAMELOT/orion/amanaimages

学力向上・確かな教材

**日協**  
(社)日本図書教材協会